

就労支援作業部会報告

伊東久美子 尾高邦生 湯山孝司 蓮香美園 松本直巳
山内裕史 吉澤洋人 伊藤友彦 加瀬進 澤隆史

I 就労支援について

本校では、就労支援を「地域社会の中で主体的に働くための実用的な知識、技能、態度への支援」であると捉え、平成14年に他の支援区分と同様に「就労支援内容配列表」を作成した。表8に当時作成した就労支援内容配列表を示す。なおこの表は要素分類のみを抜粋してある。この支援内容配列表では、「働くことに関する意識や技能」や「職業生活の理解」についての要素だけではなく、高等部卒業後の職業を中心とした生活を、生徒自らが主体的に考えることができるように、「職業適性の理解(自己理解)」や「進路の選択と決定(自己選択・自己決定)」、「生活設計」等についての要素も含まれている。本校ではこれらの要素を指導するために高等部において新しく「進路」の授業を創設した。この「進路」のねらいは、「自己の能力・適性について理解を深め、主体的に進路選択・決定や将来の生活設計を進める」こととしている。

表8. 就労支援内容配列表（要素分類のみ）

働くことに関する意識や技能			職業についての知識と理解	自己理解と職業適性		職業生活の理解と生活設計		実際の社会への移行
働く意欲・喜び 役割意識	作業能力	対人関係		自己理解 自己選択	職業適性 就業体験	職業生活の知識と理解	将来の生活と生き方	

II 問題と研究の経緯

この「就労支援内容配列表」の作成および「進路」の創設から10年以上が経過している。そこでこれまでの日々の授業実践や個別教育計画の蓄積などから、この4年間「就労支援内容配列表」の見直しに取り組んできた。特に本校中学部においては、3年間「就労支援」をテーマとして研究に取り組み、「就労支援内容配列表」の評価に関していくつかの提案をしている。これまでの本校中学部の研究は、以下の表9のように取り組んできている。

表9. 中学部の過去3年間の研究テーマ

年度	研究テーマ	概要
平成23年	本校の就労支援と中学部の作業学習－支援内容の見直しと3つの作業班に共通してつきたい力を考える－	作業学習における3作業班の課題と指導内容の検討
平成24年	本校の就労支援における中学の作業学習－3つの作業班に共通してつきたい力を考える－	3年間の課題の変化についての事例研究と校内実習期間における自己評価の変化の検討
平成25年	中学部段階における「将来の生活」「働く生活」の学習について考える－中学部における就労支援内容配列表の見直しに向けて－	将来の生活に関する生徒・保護者へのアンケート結果の分析と授業への展開

これらの結果から、「就労支援内容配列表」の評価に関して次のような提案がなされた。

- ①「働くことに関する意識や技能」に以下を追加
 - ア「自発的に準備片付けができる」
 - イ「話を聞いて作業に取り組む」
 - ウ「時間を意識して作業に取り組む」
 - エ「作業場面に適した言葉遣いができる」
- ②「自己理解・自己選択」内の「自分の好きなこと・嫌いなことがわかる」の記述の変更
- ③「自己理解・自己選択」内の「自分の得意なことがわかる」→「自分の得意なことを広げる」へ変更
- ④「職業生活の知識と理解」内の「作業学習に参加する」を「作業学習で作った製品を販売して得た収入で余暇活動をし、働く生活の経験をする」等へ記述を変更

昨年度は、作業部会を立ち上げ中学部からの提案の検討を試みた。しかしこれまでの「就労支援内容配列表」においては、要素分類間で重複する内容が含まれており、提案内容を追加することができず、「就労支援内容配列表」の要素分類を検討する必要性を示唆するにとどまった。

Ⅲ 支援内容配列表の評価

そこで今年度は以下の手順で「就労支援内容配列表」の評価作業に取り組むこととした。

- (1) 要素分類の再検討
- (2) 中学部からの提案の検討
- (3) 重複する内容および各内容の文言の検討

1. 要素分類の再検討について

重複した内容を統一し、「職業についての知識と理解」及び「実際の社会への移行」の項目を削除した。改訂した項目は以下の表10のようになる。

表10. 改訂版就労支援内容配列表（要素分類のみ）

働くことに関する意識や技能			自己理解と職業適性		職業生活の理解と生活設計	
働く意欲・喜び 役割意識	作業能力	対人関係	自己理解 自己選択	職業適性 就業体験	職業生活の知識と理解	将来の生活と生き方

2. 中学部提案の検討について

中学部提案①に関しては、提案内容を検討し内容を絞り込んだうえで、「自分の役割を理解し、他者と協力して作業をする」と「作業現場に適した態度で取り組む」を加えることとした。中学部提案②、③に関しては、「自己理解・自己選択」と「職業適性・就業体験」の項目に同じ内容が記述されていたため、内容を整理し「自分の好きなこと・得意なことがわかる」「友だちの良いところがわかる」「いろいろな職業に関心を持つ」に内容を変更した。中学部提案④に関しては、文章をよりの確な表現である「働くことの意味を知り、社会生活に関心を持つ」とした。

3. 重複する内容および各内容の文言の検討について

各学部で同じ記述の内容を、段階性を持たせた記述に変更した。また文言の訂正なども行った。表11に段階性を持たせた変更例を示す。

表11. 記述変更の例

	改訂前		改訂後
小学部	○自分の作った物が他の人に喜ばれることを体験する。	→	○自分の作った物が <u>身近な人</u> に喜ばれることを体験する。
中学部		→	○自分の作った物が <u>他の人</u> に喜ばれることを体験する。

IV 新たな授業の提案

1. 中学部「校内実習」

表12は、中学部で行われている「校内実習」の授業に関連する支援内容を示したものである。

表12. 中学部「校内実習」と関連する支援内容

働くことに関する意識や技能			職業生活の理解と生活設計
働く意欲・喜び 役割意識	作業能力	対人関係	職業生活の知識と理解
○販売することで物を作ることの意味がわかる。 ○責任を持って自分の役割を果たす。	全て	全て	○働くことの意味を知り、社会生活に関心を持つ。

中学部の「校内実習」は約4週間毎日作業学習に取り組む学習であり、この期間に作成した製品は保護者向けに販売される。そのため支援内容配列表の「働く意欲」や今回新たに加えた「働くことの意味を知り、社会生活に関心を持つ」が、通常の作業学習に加えて関連する内容となっている。

2. 中学部「作業学習」

今回行った支援内容配列表の評価作業においては、表13のように中学部に新たな内容が追加されている。しかし追加した内容から新たに授業を創設するまでには至らなかった。だが、中学部で通常行われている作業学習において、新たに追加した内容をどのように反映させるのかを検討し、以下のような変更がみられた。

○働く意義の強調

○生徒に役割意識や責任感を持たせるための指導上の工夫

例：分業作業の導入、製作する製品の分担制など

表 13. 中学部に新たに追加・修正された支援内容

働くことに関する意識や技能		自己理解と職業適性		職業生活の理解と生活設計
作業能力	対人関係	自己理解 自己選択	職業適性 就業体験	職業生活の知識と理解
○自分の役割を理解し、他の者と協力して作業をする。	○作業現場で必要な挨拶や返事の仕方を身につける。	○自分の好きなこと・得意なことがわかる。 ○友だちの良いところがわかる。	○いろいろな職業に関心を持つ。	○働くことの意味を知り、社会生活に関心を持つ。

3. 高等部「進路の学習」

また高等部においては今回新たに追加された内容はないが、中学部における「自己理解と職業適性」に関する内容の整理に伴って、就職先を自己選択していくための学習を学年の段階性を意識して見直してきた。

V まとめ

就労支援部会では今年度「就労支援内容配列表」の改訂を、これまで述べてきたように取り組んできた。今回は要素分類の検討と中学部提案の検討を中心に行ってきたため、今回新たに加えた内容や変更した内容が、他の学部でどのように扱われるのかについては十分に検討できなかった。今後各内容の学部間のつながり等もさらに検討しなければならない。またキャリア教育との関連性も検討する必要があるだろう。

この10年で障害者総合支援法の施行や障害者雇用促進法の改正などが行われ、就労に関する制度が大きく変わってきている。以上の検討に加えてこれらの制度の変化などにどのように対応していくのかも今後視野に入れる必要があるだろう。

(文責：湯山)



就労支援 指導略案

学部：中学部
場所：中1教室・
中学部棟前庭・畑

「仕事を選び、目標の数を意識しておこなう作業学習」							
授業名	作業学習 農耕班 「春野菜の種まき準備（ポット作り）・ 大根の収穫」	指導者 MT：野原 隆弘 ST：木村 有里 ST：齋藤 大地					
対象者	中学部 農耕班生徒1年3名、2年2名、3年2名（男子3名、女子4名）						
設定理由	□関連する支援内容配列表の項目						
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>働くことに関する意識や技能</th> <th>自己理解と職業適性</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中学部</td> <td>・作業能力 ○自分の役割を理解し、他の者と協力して作業をする</td> <td>・自己理解 自己選択 ○自分の好きなこと・得意なことがわかる ○友だちの良いところがわかる</td> </tr> </tbody> </table> <p>農耕班では、「作物を育てる楽しさや収穫の喜びを味わう」「協力して仕事をする」「色々な道具の扱いに慣れる」ことを目標にしている。これまで、分担した仕事を継続して一定時間取り組むことを学習してきた。 本単元では、自分で仕事を選び一定の目標数を意識しながら作業を行う。また、自分の行った仕事内容についてまとめができるようにしたい。仲間と協力して仕事をするを意識させ、互いの仕事量を表等に記入できるようにする。互いに仕事を振り返る中で、友だちの良いところがわかるようにしたい。</p>			働くことに関する意識や技能	自己理解と職業適性	中学部	・作業能力 ○自分の役割を理解し、他の者と協力して作業をする
	働くことに関する意識や技能	自己理解と職業適性					
中学部	・作業能力 ○自分の役割を理解し、他の者と協力して作業をする	・自己理解 自己選択 ○自分の好きなこと・得意なことがわかる ○友だちの良いところがわかる					
指導計画	（全3回 本時：2/3） ・仕事の流れを体験する。 ・自分の仕事を選び取り組む。（本時） ・越冬の準備（ビニール保温）をしよう。	本時の目標 ○自分のやりたい仕事を選び、仲間と協力して仕事に取り組む。 ○自分や友だちの仕事内容を意識する。					
学習活動の展開	<div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">学 習 活 動</div> <p>(1) ・仕事内容を聞き、自分の役割を選ぶ。 ・仕事で大切なポイントを確認する。</p> <p>(2) ・目標数を決める。 ・作業の準備をする。</p> <p>(3) ・ポットを作り、数を数えて表に記入する。 ・大根の収穫と販売の準備をする。</p> <p>(4) ・できた数に沿って報告する。 ・仕事の感想を言う。</p>	<div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">指 導 内 容 ・ 留 意 点</div> <p>・全体の中の自分の役割を考える。 ・その役割を選んだ理由を聞く。 ・仲間関係を意識する助言をする。</p> <p>・仕事の目標数を考えて設定する。 ・前回の個数を事前に掲示しておく。 ・別メニューも提案できる様にしておく。</p> <p>・継続して仕事に取り組む。 ・仕事場面を分かりやすく配置する。</p> <p>・自分の仕事を振り返る。 ・生徒の感想に対して、良かった部分をSTがコメントし、自信をもたせる。</p>					
評価	○仲間とやり取りをしたり協力したりできたか。 ○自分の目標に対して考えることができたか。 ○友だちの頑張りを認めることができたか。						



中学部

就労支援

農耕カレンダー班「春野菜の種まき準備・大根の収穫」 野原隆弘

関連する支援内容配列表項目

働くことに関する意識や技能

自己理解と職業適性

中学部

働く意欲・喜び・役割意識

作業能力

自己理解
自己選択

○責任をもって自分の役割を果たす

○自分の役割を理解し、他の者と協力して作業をする

○友だちの良いところがわかる
○自分の好きなこと・得意なことがわかる



1年間の指導計画

- 4月～5月 農作業を知る 農具の扱い方
- 6月～7月 ジャガイモの収穫他
- 8月 畑の管理(夏休み自由参加)
- 9月～11月 秋野菜の植え付け・収穫
- 11月 サツマイモの収穫他
校内実習 販売会
- 12月～3月 仕事を選んで協力しよう

「仕事を選び、目標の数を意識しておこなう作業学習」

- ・対象生徒
農耕カレンダー班は1年3名、2年2名、3年2名の7名構成
- ・支援内容配列表との関連
互いの得意なところを生かして、役割分担を行うことで作業への意欲が向上。
- ・生徒の変化
友達への関心が高まり、自分と仲間との協力体制が育成。

打ち合わせ

- ・今日の目標
- ・仕事分担の確認

自分の得意な仕事を選択
友だちの得意な仕事は何か

仕事分担内容

分担① 数を意識する仕事

この部分は公開に適さないため掲載できません。



分担② 体を大きく使う仕事

この部分は公開に適さないため掲載できません。

作業環境の構造化
生徒の動線の確保
等が作業のポイント

分担③ 物を丁寧に扱う仕事

この部分は公開に適さないため掲載できません。

この部分は公開に適さないため掲載できません。

作業

- ・作業器具準備
- ・分担①ポット作り
- ・分担②土ふるい
- ・分担③運搬等
- ・目標数の設定
ねらい 報告連絡
生徒同士の連携
- ・作業時間の確保
- ・片づけ

まとめ

- ・自己評価
- ・友達への関心

授業のここが変わった

作業の選択制
目標数を設定することで時間内の仕事量への見通しがもてる。
一人ひとりの責任感を高めることができる。



数を意識する場面

この部分は公開に適さないため掲載できません。



就労支援 指導略案

学部： 中学部
場所： 被服室

「働くうえでの役割意識を高める作業学習」								
授業名	作業学習 手工班「ティッシュボックス カバー、マフラー（織物）の製作」	指導者 MT：宮井 清香 ST：橋都 由美子、仲野 宏樹						
対象者	中学部 手工班 生徒1年2名、2年2名、3年3名（男子3名、女子4名）							
設定理由	<input type="checkbox"/> 関連する支援内容配列表項目 <table border="1" style="margin-top: 5px;"> <tr> <td style="width: 50px;"></td> <td>働くことに関する意識や技能</td> </tr> <tr> <td></td> <td>作業能力</td> </tr> <tr> <td>中学部</td> <td>○自分の役割を理解し、他の者と協力して作業する。</td> </tr> </table>			働くことに関する意識や技能		作業能力	中学部	○自分の役割を理解し、他の者と協力して作業する。
		働くことに関する意識や技能						
	作業能力							
中学部	○自分の役割を理解し、他の者と協力して作業する。							
	<p>手工班では、「自分の仕事を理解し主体的に取り組む」、「集中力・持続力を高め、良い製品を作る」、「役割を分担し協力して製品を作る」、「色々な道具の扱いに慣れる」ことを目標にしている。授業では、生徒が自発的に仕事に取り組めるように環境を整えたとともに、生徒にとってわかりやすい工程の製品を準備し、見通しをもって製作できるようにしている。校内実習までの期間は、良い製品を作ることを意識したり、完成する喜びを味わったりすることを目的として、一人で一つの製品を製作してきた。</p> <p>今期は、役割分担をして注文製品を作るという仕事内容を設定する。生徒に注文製品の個数や長さを具体的に示すことにより、生徒が自分の役割を意識し、任された仕事への目標をもって製品作りに取り組むようにしたい。</p>							
指導計画	(全54回 本時：52/54)	本時の目標 ○自分の役割を理解して作業をする。 ○自分で目標を設定し、評価する。						
	1) I期(4～9月):道具の使い方、製品の作り方を知る。 2) II期(10～11月):校内実習の販売会で売る製品を作る。 3) III期(12～3月):注文製品を作る。							
学習活動の展開	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px;">学習活動</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px;">指導内容・留意点</div> </div>							
	(1) <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶して入室する。 ・作業室の準備を行う。 ・作業の予定、仕事内容について聞く。 ・自分の目標を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手にわかるように挨拶をする。 ・自発的に作業室の準備を行う。 ・適切な姿勢で話を聞く。 ・自分の役割を理解する。 ・目標の個数や長さを考える。 						
	(2) <ul style="list-style-type: none"> ・自分の道具を準備する。 ・製品（ティッシュボックスカバー、マフラー）を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全に気をつけて道具を準備する。 ・質問や報告を自発的に行う。 ・製作工程を理解し、丁寧に作る。 						
	(3) <ul style="list-style-type: none"> ・自分の道具を片づける。 ・作業日誌を記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・所定の場所に片づける。 ・自分の良かった点、反省点を適切に評価する。 						
	(4) <ul style="list-style-type: none"> ・反省会をする。各自が今日の仕事について発表する。 ・教員の話聞く。 ・挨拶して退室する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各自が取り組んだ仕事を確認し、大きな声で発表する。 ・適切な姿勢で話を聞く。 ・相手にわかるように挨拶をする。 						
評価	○自分の役割を理解し、目的意識をもって製作をしていたか。 ○自分の目標を設定し、目標に対する成果を全員で確認できたか。							



中学部

就労支援

手工班「ティッシュボックスカバー、マフラー（織物）の製作」宮井 清香

関連する支援内容配列表項目

働くことに関する意識や技能	
働く意欲・喜び・役割意識	作業能力
○責任をもって自分の役割を果たす。	○自分の役割を理解し、他の者と協力して作業をする。

年間指導計画

- ①道具の使い方、製品の作り方を知る。
(4~9月)
例：ティッシュケース、アイロンビーズ等
- ②校内実習の販売会で売る製品を作る。
(10~11月)
例：リース、エコバッグ等
- ③受注製品を作る。
(12~3月)

本時

完成まで一人で製作
↓
・完成する喜び
・製作工程の見直し

「働くうえでの役割意識を高める作業学習」

- 手工班の特徴
 - ・道具の正しい扱い方、安全への配慮
 - ・生徒の実態に応じ、製品の製作工程や難易度を計画
 - ・複数の製品を準備 ⇒ 製品への関心
- 生徒の実態
 - ・よい製品を作って売るという意識が育っている。
 - ・工程を理解して取り組んでいる。
- 支援内容配列表との関連
仕事内容の明確化（全体での共有）⇒働く意欲、役割意識

準備 打ち合わせ

- ・作業室の掃除
- ・予定確認、目標の設定と確認

作業

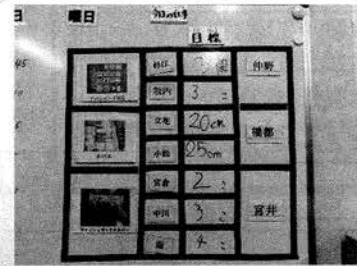
- ・ティッシュボックスカバーの製作（生徒3人）
★製作工程の分担
- ・織物の製作（生徒4人）

片づけ 日誌記入

- ・良かった点、反省点についての評価（個人）
- ・作った個数、織った長さの確認（個人）

反省会

- ・各自が取り組んだ仕事についての確認（全体）
- ・教員からの評価



<役割の理解>

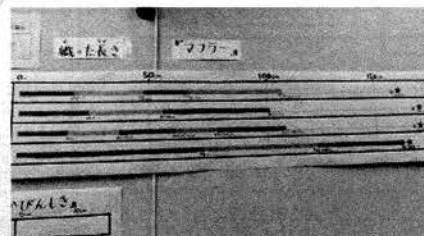
- ・役割分担
教員が提示
- ・目標の設定
教員と相談しながら自分で目標を考える。

ティッシュボックスカバー	
1	ボタンでぬる。
2	糸を通す。
3	まじわりをほす。
4	おでこにひく。
5	アイロンをかける。

マフラー	
6	ボタンでぬる。
7	糸を通す。
8	まじわりをほす。
9	おでこにひく。
10	ひびきしをほす。
11	ひびきしをほす。

受注製品

- ①ティッシュボックスカバー
 - ・工程1~4・・・生徒1人
 - ・工程5・・・教員
 - ・工程6~11・・・生徒2人
- ②織物
各製品……………各生徒



<評価>

- ・作業日誌
- ・結果の確認
⇒仕事結果を視覚的に確認、全体での共有



生徒にとってわかりやすい目標や結果 ⇒ 役割の意識化



就労支援 指導略案

学部：中学部
場所：陶工室

「自己理解を促し協力と責任を意識する作業学習」												
授業名	作業学習 陶工班 「分業体験～巻きカップ作り」	指導者	MT：伊東久美子 ST：山内 裕史 ST：岩淵 真理									
対象者	中学部 陶工班 生徒1年2名、2年3名、3年2名（男子4名、女子3名）											
設定理由	□関連する支援内容配列表項目											
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>働くことに関する意識や技能</th> <th>自己理解と職業適性</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">中学部</td> <td>・働く意欲・喜び ・役割意識</td> <td>・作業能力</td> <td>・自己理解 ・自己選択</td> </tr> <tr> <td>○責任をもって自分の役割を果たす</td> <td>○自分の役割を理解し、他の者と協力して作業をする</td> <td>○自分の好きなこと・得意なことがわかる ○友だちの良いところがわかる</td> </tr> </tbody> </table>			働くことに関する意識や技能	自己理解と職業適性	中学部	・働く意欲・喜び ・役割意識	・作業能力	・自己理解 ・自己選択	○責任をもって自分の役割を果たす	○自分の役割を理解し、他の者と協力して作業をする	○自分の好きなこと・得意なことがわかる ○友だちの良いところがわかる
	働くことに関する意識や技能	自己理解と職業適性										
中学部	・働く意欲・喜び ・役割意識	・作業能力	・自己理解 ・自己選択									
	○責任をもって自分の役割を果たす	○自分の役割を理解し、他の者と協力して作業をする	○自分の好きなこと・得意なことがわかる ○友だちの良いところがわかる									
	<p>陶工班では、「様々な工程を理解し意欲的に取り組む」「1つの製品を自分で作る」「分業を経験する」「色々な道具の扱いに慣れる」ことを目標にしている。これまで、1つの製品を自分で作るにより、作業の工程と道具の扱いを学習してきた。</p> <p>本単元では、工程の理解を深め、自分の責任を果たすことで分業の体験をさせたい。授業では、自分が工程のどこの部分を担っているかを確認する場面を設定して、分業を行う。各自が自分の役割を果たし、分業の集積で1つの製品ができあがることを経験することで、働くことに関する意識や技能を高めていきたい。</p>											
指導計画	<p>(全6回 本時：4/6)</p> <p>1/16 分業体験 ひも皿作り 1/23・1/28 分業体験 巻きカップ作り 1/30(本時) 分業体験 巻きカップ作り 2/25・2/27 分業体験 パンダ皿作り</p>	本時の目標	<p>○みんなの得意なところを生かして、役割分担をしよう。</p> <p>○自分の役割を理解し、責任を持とう。</p>									
学習活動の展開	学 習 活 動		指 導 内 容 ・ 留 意 点									
	(1)	<ul style="list-style-type: none"> 入室し、準備をする。 本時の予定を確認する。 		<ul style="list-style-type: none"> 挨拶をして入室する。係の仕事と、作業の準備を自発的に行う。 本時の見通しを持つ。 								
	(2)	<ul style="list-style-type: none"> 工程の確認をし、役割分担をする。 		<ul style="list-style-type: none"> 自分や友達の得意な工程を生かして分担をする。 								
	(3)	<ul style="list-style-type: none"> ひも作り(白粘土)、ひも作り(色粘土)、伸ばし、カップ形成で分担する。 		<ul style="list-style-type: none"> 均等な太さのひもを作る。方向を変えながら伸ばす。緩まないように型に巻いて形成する。 「お願いします」と依頼し、「わかりました」と引き受ける。 								
(4)	<ul style="list-style-type: none"> 作業日誌を記入する。 反省会をする。 		<ul style="list-style-type: none"> 良かった点、反省点を適切に評価する。 分業の成果を確認する。 									
評価	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の得意なこと、友だちの得意なことを考えて、役割分担ができたか。 ○ 一人ひとりの責任で分担することにより、良い製品がたくさんできることがわかったか。 											



中学部

就労支援

陶工班「分業体験～巻きカップを作ろう」 伊東久美子

関連する支援内容配列表項目

	働くことに関する意識や技能		自己理解と職業適性
	働く意欲・喜び・役割意識	作業能力	自己理解・自己選択
中学部	○責任をもって自分の役割を果たす	○自分の役割を理解し、他の者と協力して作業をする	○自分の好きなこと・得意なことがわかる ○友だちの良いところがわかる

本単元の指導計画

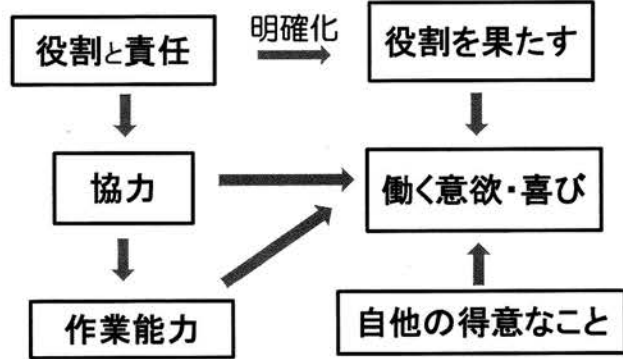
- ①分業体験：ひも皿作り
- ②分業体験：巻きカップ作り(本時)
- ③分業体験：パンダ皿作り

1年間の指導計画(12月までは、一人で全工程を行う)

- 4月～6月 花皿
- 7月 絵皿
- 夏休み デザイン皿の絵柄考案(宿題)
- 9月 デザイン皿、ひも皿
- 10月 巻きカップ
- 11月 校内実習(カレー皿など)、販売会
- 12月 販売会での注文の品
- 1月～3月 分業体験(巻きカップ、パンダ皿)

「自己理解を促し協力和責任を意識する作業学習」

- ・集団の実態
概ね、工程を理解。分業を理解しつつある。
- ・支援内容配列表との関連



分業の集積で1つの製品ができあがる喜びを経験

入室準備

- ・係の仕事
- ・自分の準備

打ち合わせ

- ・目標確認
- ・役割分担

作業

- ・分業体験
- 分担1 玉
- 分担2 並べる
- 分担3 カップ形成

反省会

- ・友だちに感謝
- ・自己評価担

自分は何の分担をしようかな？
友だちは何が得意かな？

分担1

分担2

分担3

協力和責任

おねがいします

わかりました

支援の手立て

<ひとりで>

<同じ大きさに>

<同じ太さに>

授業のここが変わった

一人で全工程

↓ ・見通し ・成就感 ・達成感

分業体験

- ・均一で質の良い製品
- ・感謝される喜び

⇒ みんなで仕事、役割意識
協力、責任感、意欲

自分の分担をしっかりやるぞ…(責任感)

みんなで力を合わせるぞ…(協力)

感謝されたぞ、がんばったぞ、うれしいな…(意欲)



就労支援 指導略案

学部：高等部
場所：高1教室

「将来の自己選択を目指した仕事分類の授業」											
授業名	進路の学習「仕事を分類する」	指導者	MT：渡邊 聡 ST：川井 優子								
対象者	高等部1年 生徒10名（男子6名、女子4名）										
設定理由	<input type="checkbox"/> 関連する支援内容配列表項目 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td style="width: 50px;"></td> <td>職業生活の理解と生活設計</td> </tr> <tr> <td></td> <td>職業生活の知識と理解</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・いろいろな仕事とその分類</td> </tr> <tr> <td>高等部</td> <td>○仕事の大まかな分類がわかる。</td> </tr> </table>				職業生活の理解と生活設計		職業生活の知識と理解		・いろいろな仕事とその分類	高等部	○仕事の大まかな分類がわかる。
		職業生活の理解と生活設計									
	職業生活の知識と理解										
	・いろいろな仕事とその分類										
高等部	○仕事の大まかな分類がわかる。										
	<input type="checkbox"/> 関連する個別教育計画の目標 「自分の気持ちを整理し、人に伝える」「決められた家事に取り組む」など 高等部1年生は11月に初めての校外での実習を行った。地域社会で実際に働く生活を経験することを通し、「仕事とはどういうことか」という大まかなイメージを持つことはできた。しかし、自分が実習で行った仕事以外にどのような仕事があるのか、といった知識を持つことや、将来自分はどのような仕事をしたいのか、といった希望や期待感を抱くことに課題を持つ生徒は多い。 本授業では、映像や画像を通し、卒業後に就く仕事には様々な種類があることを学ぶ。そして、それらの仕事を大まかに分類する作業を行う。その作業を行うことを通して、自分が抱いていた仕事のイメージを上げるとともに、将来自分がやりたい仕事を考える第一歩となることを目指す。										
指導計画	(全3回 本時：3/3)	本時の目標	○実習で行った仕事を大まかに分類することができる。 ○これからの実習で、自分がやりたい仕事を発表することができる。								
	① 1年生の実習の仕事内容を考える ② 2、3年生の実習の仕事内容を知る ・考える ③ 仕事を大まかに分類する（本時）										
学習活動の展開	学 習 活 動		指 導 内 容 ・ 留 意 点								
	(1)	・本時の授業についての説明を聞く。	・学習について見通しを持つことができる。								
	(2)	・前時の復習をする。	・前時のワークシート（2、3年生が実習で行った仕事内容）を見ながら発表する。								
	(3)	・仕事を大まかに分類する。	・2つのグループに分かれ、話し合う。 ・表にまとめる。								
	(4)	・自分の考えをまとめ、発表する。	・自分がやりたい仕事をワークシートにまとめる。 ・まとめたことを発表する。								
評価	<input type="checkbox"/> 実習で行った仕事を大まかに分類することができたか。 <input type="checkbox"/> 自分がやりたい仕事をイメージすることができたか。										



就労支援

高等部

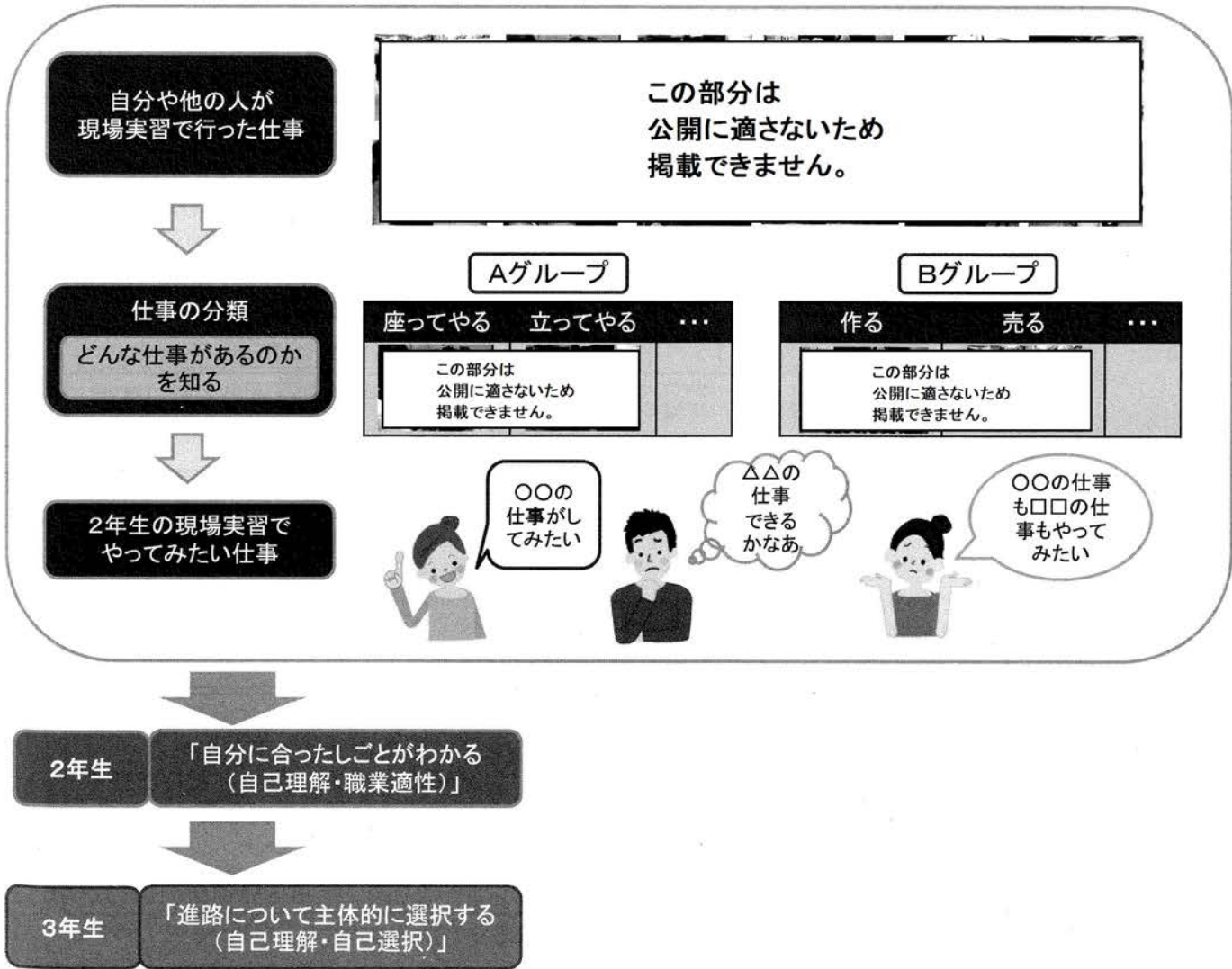
1年生 進路の学習「仕事を分類する」 渡邊 聡

関連する支援内容配列表項目

高1		高2		高3	
職業生活の理解と生活設計		自己理解と職業選択		職業生活の理解と生活設計	
職業生活の知識と理解		職業選択		将来の生活と生き方	
● 仕事の大まかな分類がわかる。		● 自分に合った仕事が見つかる。		● 卒業後の生活について具体的に想定する。	

「将来の自己選択を目指した仕事分類の授業」
 卒業後に就く仕事には様々な種類があることを、現場実習で行った仕事の大まかな分類作業を通して学ぶ。また将来自分がやりたい仕事を考える第一歩となることを目指す。

- 本授業（本単元）の指導計画
- ① 1年生の実習の仕事内容を考える
 - ② 2、3年生の実習の仕事内容を知る・考える
 - ③ 仕事を大まかに分類する(本時)





就労支援 指導略案

学部：高等部
場所：高2教室

「将来の自己選択に向け、職業適性に着目した進路の授業」												
授業名	進路の学習 「自分に向いている職場を考える」	指導者	MT：吉澤洋人 ST：岩本悠希 宮坂美帆子 角田真紀子									
対象者	高等部2年 生徒10名（男子4名、女子6名）											
設定理由	□関連する支援内容配列表											
	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">自己理解と職業適性</th> </tr> <tr> <th></th> <th>自己理解／自己選択</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高等部</td> <td> ○進路について主体的に選択する。 ○自分のつきたい職業を持ち、表明する。 </td> </tr> <tr> <th></th> <th>職業適性／就業体験</th> </tr> <tr> <td></td> <td>○自分にあった仕事がわかる。</td> </tr> </tbody> </table>			自己理解と職業適性			自己理解／自己選択	高等部	○進路について主体的に選択する。 ○自分のつきたい職業を持ち、表明する。		職業適性／就業体験	
自己理解と職業適性												
	自己理解／自己選択											
高等部	○進路について主体的に選択する。 ○自分のつきたい職業を持ち、表明する。											
	職業適性／就業体験											
	○自分にあった仕事がわかる。											
設定理由	<p>生徒は、計4回の現場実習経験を通して「好きな仕事内容や職場」について意見を持ち始めている。ただ自身の意見と実習評価が結びついていない生徒もおり、今後の進路選択に向けて適性への理解と高めていく必要がある。加えて、給与や通勤距離など「希望する職種・職場」について考えていく事が必要な生徒も一部いる。</p> <p>本単元では「自分に向いている」職場について、実習経験をもとにいくつかの視点（仕事内容、職場の環境、職場の条件）からとらえ直すことを行った。</p> <p>授業では、実態に応じて仕事内容とその評価から向いている職場を考え、その職場の仕事以外の良さについてもまとめるグループ。仕事・環境・条件の3点で職場をとらえ、自身の希望する職場の整理を行うグループの2グループ編成で行う。いくつかの視点から実習経験や「向いている職場」についてまとめていく経験を通して、自身の適性や希望を考え、進路を主体的に選ぶきっかけとしたい。</p>											
指導計画	（全5回 本時：3／5※） ・好きな仕事、向く仕事を考える ・これまでの実習経験を振り返る ・自分に向いている職場を考える（※） ・発表の準備をしよう ・自分の適性って何だろう	本時の目標	○自分に向いている職場を考える視点（ex：仕事・環境・条件）を知る。 ○自分に向いている職場（進路）を考えようとする。									
学習活動の展開	学 習 活 動		指 導 内 容 ・ 留 意 点									
	(1)	・今日の学習内容についてMTの説明を聞く。	・「自分にあった職場」（仕事やそれ以外の視点）について考える事が分かる。									
	(2) -①	MTグループ ・「向いている職場」の項目をワークシートやカードにまとめる。 ・自分の考えを発表する。	・「向いている職場」「希望する職場」の項目を3点に分類できる（仕事＝内容や種類、環境＝場所や人、条件＝給料や通勤） ※一部生徒はカードでSTとまとめる。 ・仲間の意見を聞き、自分の意見と比べる事ができる。									
(2) -②	STグループ ・「自分に向いている」作業所の良い所を発表する。 ・ワークシートにまとめる。	・「自分に向いている」作業所の良い所を仕事面とそれ以外に分ける事が出来る。 ※STは、仕事面 or それ以外のどちらに当てはまるか生徒に発問しながら進め、板書にまとめる。 ・本時の内容を振り返ることができる。										
評価	○仕事内容以外の点にも注目できたか。 ○自分に向いている職場・希望する職場について、まとめられたか。											



就労支援

高等部

2年生進路の学習

「自分にあった職場を考える」

吉澤洋人

関連する支援内容配列表項目

高3

高1	自己理解/自己選択	職業適性/就業体験	職業生活の理解と生活設計
職業生活の理解と生活設計	<ul style="list-style-type: none"> 進路について主体的に選択する。 自分のつきたい職業を持ち、表明する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分に合った仕事がある。 	将来の生活と生き方 <ul style="list-style-type: none"> 卒業後の生活について具体的に想定する。

好きな仕事～自分にあった職場 いくつかの視点から職場を考える

STグループ：向いている（と考える）職場のすきな所・良い所を集める。（仕事内容とその他）
 MTグループ：これまでの実習先について（仕事・環境・条件）の項目で分類、自分が希望する内容整理を行う。

本授業（本単元）の指導計画

- ①すきな仕事 向いている仕事を考える
- ②実習経験をふりかえる（マイネットワーク）
- ③自分にあった職場を考える
- ④発表の準備をしよう
- ⑤自分の適性って何だろう

仕事＝封入が好き
↓
だから、実習した
〇〇作業所がいい

□施設長に
褒められた

だから、実習した
〇〇作業所がいい

封入が好き！
座って仕事したい

でも、立ち仕事の
△作業所で褒められ、
嬉しかった！

立ち仕事もいいな！

仕事＝資源回収が好き。
だから☆作業所！

でも、封入も得意で
褒められた。

また、考え中

STグループ

好きな理由

- 仕事内容、場所、人など

現場実習の振り返り

- 得意な仕事、苦手な仕事
- 仕事以外の好きな理由
- 向いている職場の広がり

「向いている」＝すきな職場
の良い所を発表

- 仕事の種類
- 仕事以外（人や作業所の雰囲気等々）

MTグループ

好きな理由

- 職種、環境、企業＞作業所など

向いている職場探し

- 2つの職場の比較
- 改めてすきな職場の理由

向いている職場を考える

- 仕事や環境（場所・人）について
- したい生活に関わる条件（＝給与や休日など）

清掃作業が好き、だから
〇〇（株）がすき

他には？

↓
特例子会社で仲間が多い
大好きな鉄道関連の仕事

仕事は△スーパーと□食堂
のどちらも好き！

↓
共通する働き方や特徴は？
＝お客さんと接する仕事！

工場よりレストランの仕事
が好き！

↓
理由は、工場の大きな音
は苦手で長く働けない。

3年生に向けて～

- 実習や進路への考えを表明する練習（スタート）
- 仕事内容以外に職場を考える視点がある事への気づき
- 主体的な実習先・進路先選定への参加
- 向いている職場（適性）へのさらなる学習と評価の積み上げ

私は〇〇作業所がすき
理由・・・〇〇だから

自分に向いているのは
〇〇な職場

仕事について	職場の環境	職場の条件
<ul style="list-style-type: none"> • 仕事種・内容 • 働き方 	<ul style="list-style-type: none"> • 場所 • 人 	<ul style="list-style-type: none"> • よりよい条件 • 自分のくらしに合う



就労支援 指導略案

学部：高等部
場所：高3教室

「自己理解と自己選択に着目した進路の授業」										
授業名	進路の学習「移行支援会議にむけて」	指導者 MT：尾高 邦生 ST：山本 由佳 ST：松本 晃								
対象者	高等部3年 生徒10名（男子5名、女子5名）									
設定理由	□関連する支援内容配列表項目									
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>自己理解と職業適性</th> <th>職業生活の理解と生活設計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>自己理解 自己選択</td> <td>将来の生活と生き方</td> </tr> <tr> <td>高等部</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の長所や短所がわかる。 ○進路について主体的に選択する。 ○自分のつきたい職業(進路)を持ち、表明する。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○卒業後の生活について具体的に想定する。 </td> </tr> </tbody> </table> <p>高等部3年生は卒業後の就業生活に向けた準備の時期に入る。これからそれぞれの進路先や関係者との移行支援会議が行われ、生徒も参加する。移行支援会議では、自分の将来の生活や働きかたに関する希望、得意なこと不得意なことを生徒自ら伝えていく場面を設定する。そのために自己理解を適切に行うこと、活動を選択すること、卒後はたらく生活を知ることなどを授業を通して行っていきたい。</p> <p>自己理解については「職場などの社会的場面での自分」に焦点をあて、今までの現場実習での評価表や適応行動に関するアセスメントを活用しながら自分の長所・短所を考え、受けとめ、他者に伝えていくことをねらいとする。</p> <p>また、選択については、「仕事や余暇、地域生活などの社会的な場面」での自分の希望を表明する、選択する機会が今後多くなると考えられる。身近な場面や題材を通して、意思決定や意思表明を的確にし、他者に適切に伝えていくことをねらいとする。</p> <p>これらの学習を通して、生徒一人ひとりが主体的に移行支援会議に参加し、卒業後の就業生活に円滑に移行できるようになることを期待したい。</p>			自己理解と職業適性	職業生活の理解と生活設計		自己理解 自己選択	将来の生活と生き方	高等部	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の長所や短所がわかる。 ○進路について主体的に選択する。 ○自分のつきたい職業(進路)を持ち、表明する。
	自己理解と職業適性	職業生活の理解と生活設計								
	自己理解 自己選択	将来の生活と生き方								
高等部	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の長所や短所がわかる。 ○進路について主体的に選択する。 ○自分のつきたい職業(進路)を持ち、表明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○卒業後の生活について具体的に想定する。 								
指導計画	(全4回 本時：3/4) ①移行支援会議とは？ ②自分を知るⅠ/将来の希望を考えるⅠ ③自分を知るⅡ/将来の希望を考えるⅡ ④自分の「味方」に伝える	本時の目標 <ul style="list-style-type: none"> ○自分の将来の生活について、選ぶことができる。 ○自分の長所や短所について考えることができる。 								
学習活動の展開	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">学 習 活 動</div> <p>(1) ・本時の授業についての説明を聞く。</p> <p>(2-A) ・職場での活動について知る。 ・活動を選択する。 ・選択した活動に取り組む。</p> <p>(2-B) ・実習評価表から、他者の評価を知る。 ・自分の長所や短所について考える。</p> <p>(3) ・本時の内容をワークシートにまとめる。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">指 導 内 容 ・ 留 意 点</div> <p>・学習について見通しを持つことができる。</p> <p>・職場での活動に関する情報を得ることができる。 ・実行を通して選択の責任を知る。</p> <p>・他者評価を知り、受けとめることができる。 ・他者評価と自己評価から自己理解を深める。</p> <p>・学習した内容について振りかえることができる。</p>								
評価	<ul style="list-style-type: none"> ○職場での活動を知り、選択することができたか。 ○他者評価をふまえて、自分の長所や短所について考えることができたか。 									



就労支援

高等部

3年生 進路の学習「移行支援会議にむけて」 尾高邦生

関連する支援内容配列表項目

高3

高2		自己理解と職業適性	職業生活の理解と生活設計
高1	自己理	自己理解/自己選択	将来の生活と生き方
職業生活の理解と生	自己理解/自己選択	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分の長所や短所がわかる。 ● 進路について主体的に選択する。 ● 自分のつきたい職業(進路)を持ち、表明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 卒業後の生活について具体的に想定する。
職業生活の知識と	<ul style="list-style-type: none"> ● 進路について主体的に選択する。 ● 自分のつきたい職業を持ち、表明する。 		
● 仕事の大まかなわかる。			

「自分のことを知り、自分の味方につたえよう！
—自己理解と自己選択に着目した授業—」

- 移行支援会議への主体的な参加
 - ⇒ 自分のことを支援者に伝える
 - ⇒ ①「はたらくうえでの長所や短所」(自己理解)
 - ②「自分で選ぶ」(選択経験の積み重ね)
 - ⇒ 目的に応じて2つのグループで展開

本単元の指導計画

- ① 移行支援会議とは？
- ② 自分を知る I / 将来の希望を考える I
- ③ 自分を知る II / 将来の希望を考える II
- ④ 自分の「味方」に伝える

移行支援会議に焦点をあてた2つのグループ展開

【アセスメントを活用した自己理解】

ASIST 学校適応スキルプロフィール

「ASIST-ID ver.: 適応スキルプロフィール」
社会的な場面での適応状況に関するアセスメント

現場実習での評価表
(3年間で7か所での実習)

自分の行動に対する他者からのフィードバック
⇒ 他者とかわりながら自己理解を深める必要性(Frith,2003)

自己への気づき

アセスメントや評価表の読み取り
● 他者評価の受け入れ

自己の多面性の理解

長所や短所についてのまとめ
● 自分らしさの発見

他者への伝達

支援者との関係づくり
● 自己開示と支援要請

【自己選択の過程に注目した授業】

職業生活における選択場面
—作業活動と職場における余暇活動—

知る

- 【情報提供方法・内容】
⇒ 現場実習の経験をフィードバック
手だて: 選択の対象や状況を動画で伝える

選ぶ

- 【選択肢の提示、選好の明確化】
⇒ 生徒の実態に応じた選択肢の生成
手だて: 選択肢の数、提示する対象の抽象度を調整

伝える

- 【選好の表出の見とりと援助】
⇒ 視線、リーチング、指さし、音声言語等のアセスメント
手だて: より高めたい表出方法の焦点化

やってみる

- 【選択の因果関係の理解への支援】
⇒ 選択の結果と責任の状況設定
手だて: 実際の活動の提供

キャリア発達の重要な要素